

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年10月20日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873600613		
法人名	社会福祉法人 樺山会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム 和みの家	ユニット名	1
所在地	〒311-1426 茨城県鉾田市樺山579-1		
自己評価作成日	平成22年5月24日	評価結果 市町村受理日	平成22年10月12日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成22年7月7日	評価確定日	平成22年10月1日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>特別養護老人ホームに隣接されており、施設入居者と在宅福祉サービス利用者との交流の場として、地域の方に広く開放されています。地域密着事業として、利用者様が、住みなれた地域で、これまで大切にしてきた馴染みの人との関係が途切れないよう支援しております。季節の行事等を取り入れ、ゆったりとした流れの中でお互いに明るく楽しい交流を図っています。また、のどかな雰囲気の中で、家庭菜園もあり四季おりおりの野菜を作り、皆様に召し上がっていただいております。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>管理者と全職員で話し合い「住み慣れた地域、安全で安心な生活、いこいの場」との理念を作成し、利用者の自立した日常生活の支援や機能訓練等のケアに取り組んでいる。</p> <p>利用者は市の敬老会に参加したり文化祭を見学しているほか、小学校の運動会に父兄の送迎の協力を得て参加するとともに、事業所に訪問した保育園児とふれ合ったり職場体験で来訪した中学生と交流している。</p> <p>法人主催の納涼祭に地域の人々の参加協力を得たり、近隣住民から季節の野菜の差し入れがあるなど、利用者は地域とつながりながら暮らしている。</p> <p>家族等の来訪時や家族会を利用して意見を聴いたり、家族アンケートの実施や毎月1回利用者や栄養士、職員等で生活改善委員会を開催し、出た意見等を運営に反映させている。</p> <p>契約時に事業所や第三者機関の苦情相談受付窓口を説明するとともに、結果を文書で家族等に報告している。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	特養設立当初からの「やすらぎの家をめざして」という理念の他、施設長と職員全員で考えた独自の理念を掲げ、掲示板や事務室に明示し、スタッフ会議で読み上げるなどして、確認し合っています。	「住み慣れた地域、安全で安心な生活、いこいの場」との理念を管理者と全職員で作成しヘルパー会議や朝礼で話し合い共有するとともに、日々のケアに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校の運動会に参加する際には、小学生の家族が送迎してくださっています。又、当事業所で納涼祭を行なう際には、地域に参加の呼びかけを行い、当日は多数の方々にご参加をいただいています。	利用者は市主催の敬老会に参加したり文化祭を見学しているほか、小学校の運動会に父兄の送迎の協力を得て参加するとともに、散歩の途中に事業所に立寄った保育園児とふれ合ったり、職場体験で来訪した中学生と交流している。 年間を通して季節の野菜の差し入れがあったり、法人主催の納涼祭には地域の人々の参加協力を得るなど、職員は利用者が地域とつながりながら暮らし続けられよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として、実習生の受入れも積極的に行なっています。地区民生委員を通して、高齢者家族に認知症に関するパンフレットを配布していただいています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ケースだけの問題と捉えるのではなく、そのケースに起きた事が、地域住民の中にも起こりえる問題として考え「こういったケースの時にはどう対処するのか」といった情報共有を出席者間で図り、サービスの向上、地域力の向上につながるよう努力しています。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、サービスの現状や行事報告、避難訓練、外部評価結果について報告するとともに会議録を作成し、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。 運営推進委員には運営推進会議年間予定表を配布し出席し易いよう配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	処遇困難事例の対応を福祉事務所と協力連携して実施している。また、利用者によっては、自宅への外出時に福祉事務所の方も一緒に行っていたりなど協力していただいています。	市担当者が運営推進会議に出席しているほか、市担当者から情報提供を受けたり、事業所の課題についての相談や利用状況等の報告をしている。 生活保護利用者への対応は福祉事務所職員と連携を図ったり、帰宅願望のある利用者に対し安心して生活できるよう福祉事務所職員と一緒に利用者の自宅への外出支援を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の代表が研修に参加し学んできた事を勉強会を開催し伝達講習しています。これにより職員全員が身体拘束をしないケアへの理解を深め、質の高いケアとなるべく心がけています。また、帰宅願望が強いケースの場合は、止めるのではなく同伴外出を試みる等して対応しています。	利用契約書に緊急やむを得ない場合を除き身体拘束は行わないことを明記するとともに、利用者や家族等に説明し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 法人内の身体拘束委員会に代表者が参加しているほか、職員が研修を受講した場合は記録を作成し回覧したり、職員会議や勉強会等で報告し全職員で共有している。 職員は言葉かけや見守りをするなどして利用者の安全を確保しつつ玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の中で、高齢者虐待防止法について話し合いを行い、どのような行為が虐待に当てはまるのかを理解し、「何気ないひとことで、入居者・利用者の尊厳が損なわれないよう注意する」といったことを含め虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	玄関入り口に、パンフレットを置き利用者やご家族にも周知いただけるよう努めています。また、勉強会を開き、職員の理解を深めるようにしています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所契約書及び重要事項説明書に基づき、十分な説明を行ない、理解・納得の上で、同意書に記入していただいています。 ・解約においても十分説明を行ない理解していただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・月に一度生活改善委員会を開き、入居者の意見を聞き取りし、事業の実行に反映しています。 ・運営推進会議、家族交流会や面接時において、いろいろな意見をいただいています。また、苦情・相談委員会を設置し、意見があったときは委員会を開催し、随時対策の検討や是正を実行しています。 ・ご家族へはアンケートを行って、いただいたご意見を施設運営に役立てています。	職員は家族等の面会や電話連絡時に話を聴くとともに、家族会や運営推進会議時に意見等を聴いたり、家族アンケートを実施し要望を汲みあげるよう努めるほか、生活改善委員会を毎月開催し利用者の意見等を聴くよう努め、出た意見等を運営に反映させている。 玄関に意見箱を設置するとともに重要事項説明書に苦情相談受付窓口を明記している。 家族等から意見が出易いように法人の広報紙を年4回送付したり、利用者の近況を毎月家族等に報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・日頃より、コミュニケーションを図るよう心がけ、随時、職員の意見や提案等を受け付けています。月一回ヘルパー会議を設けてケアの向上に努めています。	管理者は日々の記録や毎日の朝礼、毎月のヘルパー会議等を利用して職員の意見や要望を聞き、出た意見等を運営に反映させているが、全職員で内容を共有するまでには至っていない。	全職員が会議内容を共有するよう、欠席した職員でも会議録の内容を確認することを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員用の休憩室が確保してあります。 ・年2回健康診断を行い、体調管理に努めています。 ・資格取得についても、資料を分かりやすい所に貼り付け、自由に閲覧できるようにしています ・職員アンケートを行い、働きやすい職場作りを心掛けています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要とされる研修に参加し、勉強会に取り入れています。また、研修報告書を作成し回覧しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修会等に参加した際、他所で行なっている工夫や注意している事等の情報交換等を行い、ケアの向上につとめています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の生活歴や性格を理解し、同じ目線に立ってコミュニケーションを図りながら信頼関係を築いています。また、サービス利用前に必ず本人に会い、心身の状態や考えを聞き、本人に受け入れていただけるような関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にとって心配なことや悩んでいることをお聞きし、事業所としてどのような対応がしていけるか理解していただきます。また、傾聴により、家族自身が悩み事に落ち着いて向き合い、受容したり柔軟に考えていけるように支援する関係作りを目指しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの経緯や、サービス利用状況を把握し、利用者や家族が何を必要としているのかを会話の中で確認しながら理解を深めています。必要に応じ、地域包括支援センターへつないだり、居宅介護支援事業所への相談を促す等他のサービスにつなぐことで問題の解決につながるよう支援しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が何を必要としているのかを考え、職員や他の利用者とのコミュニケーションを取りお互いが信頼できる関係作りをしています。また、レクリエーション等の中から、昔の歌や遊び、行事ごと等を教えていただいたりしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来た時には、入居者の日常の生活状況をお話し、家族の事などについて話し合いを持ち、情報の共有に努めながら、ケアにあたっています。 毎月一回担当職員が利用者の現況報告を作成し、ご家族宛に郵送しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人・知人等に自由に訪問していただき、外出も勧め、交流が図れるように努めています。	利用者は地域の美容院を継続して利用したり、家族等の協力を得て馴染みの場所や墓参りに出かけている。 親類や友人などが来訪したり、利用者が入居前に住んでいた近所の方から利用者の好きな食べ物が届いている。 職員は利用者に電話を取り次ぐなど馴染みの人との交流を支援し、関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者情報を記録簿や引継ぎ簿に記入し、職員間で情報共有しています。また、お茶の時間は職員も一緒にお茶のみ会話を持つなどして、利用者同士の関係がうまくいくように配慮しています。利用者同士のトラブルが生じない様、個別に話を聞いたり相談にのるなどして、人間関係がうまくいくよう職員が調整役となって支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所や老健施設等に入所された方にも声掛けして迎えに行き、一緒にお茶をしたり、家族交流会にお招きするなどして交流を図っています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で、常に声掛けを行い把握するように努めています。また、意思の疎通が困難な方は、表情等から汲み取り、確認するなどして意思の疎通を図っています。	職員は利用者との日々の係わりの中で、表情や言葉から一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。意向の把握が困難な場合は、家族等の面会時に意見等を聴き職員で話し合うほか、利用者一人ひとりの生活状況が記載してある「和だちノート」などから利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴等は、利用者のプライバシーに触れる部分である為、十分配慮しながら、本人との会話の中から、また、家族・知人等の面会時にお話をお聞きするなどして把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者本人の生活、日々の記録から生活リズムを把握し、残存能力を活かせるようなケアを行なっています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族等との話し合いのデータを基に、ヘルパー会議の中で話し合いをして、介護計画の作成に活かしています。	介護計画は利用者や家族等の要望を取り入れたり、毎月開催しているヘルパー会議や朝礼等で話し合ったことを反映させ作成するとともに、設定期間毎の見直しや利用者の心身の状態に変化が生じた場合は現状に即した介護計画に見直すほか、家族等に説明し確認を得ている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に、食事、水分量、排泄等の身体状況や、その日の本人の様子や言葉、ケア内容を記録し、考察も記入できるようにして、すべての職員が経過を含め様子を確認し勤務に当たるようにしています。 朝、ミーティングを行い、特に重要な事、注意する事等を伝え情報の共有を図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な外出や外泊、通院や送迎の必要な支援において、柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して生活して頂ける様、近在の消防団と合同で年3回消防訓練を行っています。また、月2回買物に出かけたり、本人や家族の希望に応じ、訪問理容や送迎付きの理容サービスを利用いただいています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が受診を希望するかかりつけ医を入居時に確認し、出来るだけ希望に添えるように支援しています。 通院は、家族による送迎、または希望により職員が同行して行かないです。 診察結果においては、変化があった場合は随時家族に連絡をしています。	入居時にかかりつけ医を確認し家族等や利用者の希望にそった受診支援をしている。 通院介助は家族等や職員が行い適切な医療が受けられるよう支援している。 受診結果を家族等に説明したり記録するなど情報の共有を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・入居者の体調の変化を見逃さないよう、早期発見にとりくんでいます。 ・隣接する医療機関と必要に応じ連絡を取り、健康管理や医療活動を行なっていますが、介護職員の病気に対する理解や観察力を付ける必要性を感じており、今後の課題となっています。		



☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の情報を医療機関に提供し頻りに職員が見舞うようにしています。また、家族や担当医師とも情報交換し、回復状況の把握に努め、退院支援に結び付けています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所においては、日常生活において自立し共同生活が行なえる方が入居の条件であることを入居時に説明し、家族の了解をいただいています。重度となった場合について、本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携を図り事業所として出来ることを十分に説明し、理解をいただいています。(マニュアルについては、樺山会にて作成)	利用契約時に利用者と家族等に自立した生活ができることが入居の条件であることを契約書や重要事項説明書で説明し、重度化や終末期のケアができないことについて同意を得ている。 退去にあたっては利用者や家族等に説明し記録を保管するとともに、介護老人福祉施設や病院、居宅介護支援事業所、その他の保健医療サービス、福祉サービス提供者の紹介を支援している。 利用者の体調の急変や事故等に備え全職員が普通救命講習を受講しており、ヘルパー会議時にマニュアルを基に学習している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力の下、すべての職員が普通救命講習を修了しています。また、ヘルパー会議時において、マニュアルを基に勉強会を行なっています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元消防団の協力を得て、年3回消防訓練を行っております。また、緊急時に職員が駆けつける時間を把握する為に、緊急連絡網を回しています。	消防署や消防団の協力を得て、火災避難訓練や通報訓練、夜間想定訓練、消火訓練を同一法人他施設と合同で年3回実施している。 訓練後は記録を作成し今後の訓練に活かすとともに、運営推進会議等でも報告している。 災害の発生に備えて法人で備蓄リストを作成し一括準備しているが、飲料水や排泄用品等を備蓄するまでには至っていない。	災害時に備えて飲料水と排泄用品の備蓄を提案する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の人生の中で一番輝いていた頃の思い出を積極的に話していただける様働きかけ、一人ひとりの存在が、かけがえのないことであると感ぜられるように日頃の会話に気を付けています。	職員はトイレや居室の入室時には言葉かけを通して利用者の自己決定を促すなど、一人ひとりの誇りやプライバシーを大切に支援している。 個人情報使用について家族等の同意を得るなど取り扱いや管理に留意している。 プライバシー保護に関するマニュアルを作成するとともに、職員は法人内研修や外部研修で共有し日々のケアに活かしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	うまく言葉に出来ない状況の方もおられるので、想定される選択肢を具体的に提示し、本人の気持ちが表現しやすいように支援しています。	/		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意向を聞きながら、季節に応じた催し物や外出等を企画しています。しかし、当日の体調や天候によっては利用者の気持ちが変わることもあるので、意向を尋ね無理強いする事が無いよう注意しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職業や過去の生活歴からご本人の好む色やコーディネートを提案し、一緒に考えながら衣類の選択を勧めています。また、マニキュアや口紅、ファンデーションを付ける等おしゃれに興味のある方には、一緒にお化粧したりしています。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者と職員とで一緒に食材を刻んだり、盛り付けたり、配膳したり、ランチョンマットやお箸のセッティング、食卓の花を飾る事などを協力して行い楽しみのある食卓をなるよう心掛けています。</li> <li>・月に一度は出前をとって食事をすることをこなっており、普段とは違う味付け、ボリュームでそれぞれの希望のメニューを配達してもらい喫食しています。</li> </ul>	<p>利用者や職員、栄養士で生活改善委員会を毎月開催し、出た意見等を食事の支援に活かしたり、行事や誕生会の食事に取り入れている。</p> <p>毎月1回出前を利用するなど、利用者の希望にそった支援をしている。</p> <p>利用者と職員と一緒に食事をし、和やかな雰囲気の中「美味しい」との感謝の言葉が聞こえている。</p> <p>利用者は調理や盛り付け、ランチョンマットのセッティング、配膳、下膳、後片付けなどを職員と一緒にしている。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事量や水分量を全職員がすぐに把握できるよう記録しています。</li> <li>・本人の食べやすい形状（刻み・おかゆ）等も確認し対応しています。</li> <li>・毎日の献立のメニューは隣接する施設の管理栄養士が作成しております。</li> </ul>		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<p>全員に歯磨きの実施の声かけをし、状態に応じた支援（食後のうがい、歯磨き、入れ歯の洗浄）を行っています。しかしながら、利用者によっては、拒否や、筋肉硬直のため食事の時間がずれてしまったりする事もあり、シフトを越えて継続的に対応する取り組みが今後の課題になっております。</p>		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の排泄時間を考慮し、トイレ誘導をおこなっています。</li> <li>・失敗してしまった場合でも、自尊心に配慮し周囲に気づかれないよう、声掛けやタイミングを図ることを行ないながら対応しています。</li> </ul>	<p>職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに時間を見計ってトイレ誘導したり、利用者の様子からサインを察知し言葉をかけるなど、トイレで排泄ができるよう支援しているほか、排泄介助時には利用者の身体機能に応じて手を差し伸べている。</p> <p>居室にトイレを備え付け利用者のプライバシーや羞恥心、排泄の自立に配慮しているため、利用者は自分でパッド交換などを行っている。</p>	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・排泄の有無の確認。排便が無い場合は、自然排便や牛乳、ヨーグルト、サツマイモなど自然排便を促進する食品の喫食を進め自然排便を促します。 ・散歩や体操や足の運動等を行いお茶の時間の水分量もチェックしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には、入浴は毎日行なっています。バイタルチェックを行ないながら本人の体調を伺い、入浴していただいています。入浴の際も本人の希望で午前中であつたり、シャワー浴にしたりとその都度対応しています。	利用者の希望にそって午前中や夕方の時間帯に入浴できるよう支援している。 入浴を拒む利用者にはタイミングを見計らって声かけをしたり、シャワー浴や清拭などを実施し一人ひとりに応じた支援をしている。 浴室は男女別に2ヶ所設置しており浴室の窓からは中庭が観賞でき、季節に応じて菖蒲湯や柚子湯を取り入れ入浴が楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・利用者の体調を考慮し、日中の活動を促し、安眠していただける様心掛けています。 ・なかなか寝付けない利用者には、職員と一緒におしゃべりするなどして、気になる事を聞き取りすっきりして落ち着いていただけるように支援しています。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個人ごとのファイルを作成し、薬の目的、副作用、用法用量について把握しています。 薬は朝・昼・晩と分けて保管し、食事介助者が名前を確認し、手渡しで服用していただいています。また、変更があったときは、服用しての状態を医師に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・生け花や食事作り、盛り付け食器拭きテーブル拭き、モップ掛け、新聞取りなど利用者それぞれに出来ることを役割として見守りながら行なっています。 ・音楽鑑賞、散歩、レクリエーションと利用者によって様々ですが、気分転換が図れるよう支援しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自力歩行・歩行器・シルバーカー・車椅子等本人の歩行状況は様々ですが、天気の良い日には、なるべく外に出ただけよう支援しています。外でお茶をしたり、手作り弁当を喫食したりしています。また、遠足等外出企画の参加は、本人に確認し、家族に相談する等して、かかる経費も考慮し、時には職員が下見するなどして、利用者が安心して出かけられるよう支援しています	利用者は家族等の協力を得て墓参りなどに外出している。 職員は利用者が日常的な散歩のほか花見やぶどう狩り、ドライブ、法人や事業所主催の遠足などに出かけられるよう支援している。 月2回買い物支援し利用者は職員見守りのもと自分で代金の支払いをしている。 天気の良い日は日光浴を兼ねて戸外でお茶を飲んだり手作りの弁当を食べられるよう支援し、利用者の楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かり事務所で管理していますが、買物や外出の際は財布を持ち、支払いは職員が見守りながら、自分で行なっています。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙はもちろん本人に手渡しし、電話の場合は、コードレスで各利用者の居室で話していただいています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が集まる食堂や和室は、見通しがよく、音楽をかけたりして落ち着いた雰囲気を大切にしています。また、季節感を大切に、季節行事を実施して楽しんでいただいています。（七夕、月見、入浴時には、菖蒲湯、ゆず湯、食堂では草もち作りや冬は餅つき等）</li> <li>・壁には、それぞれの催し物の写真を飾り家族の方にも見ていただいています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関や食堂、サンルームからは紫陽花などの草花や畑の作物が観賞でき季節の移り変わりが感じられる。</li> <li>・ゆったりとした明るい食堂には観葉植物や行事などの写真を飾っているほか、利用者が寛げるよう椅子やテーブルを用意したりテレビを設置し、居心地良く過ごせるよう配慮している。</li> <li>・畳のスペースは洗濯たみや休息、雛祭りなどの催し物に利用している。</li> <li>・サンルームでは利用者が自由に滑車運動ができるよう器具を設置している。</li> <li>・台所や浴室、トイレなどの共用空間は清潔に保たれ、窓ガラスの清掃は家族会の協力を得ている。</li> </ul>	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭や玄関の椅子の他、サンルームにテーブルと椅子、廊下にはフットマッサージ器と椅子を設置しており、利用者同士で自由に使っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、家族や本人が持参されたラジオやテレビ、写真、寝具、植物等を置き、それぞれに個性があり、落ち着ける過ごしやすい場になっています。	利用開始時に利用者や家族等に使い慣れた物品を持ち込んでもらうように説明している。 利用者は居室に時計や日用品、整理タンス、テレビ、観葉植物、書物、冷蔵庫など使い慣れた馴染みの物を持ち込み居心地良く過ごせるよう工夫している。 職員は利用者の生活歴を把握するとともに、利用者が居室の清掃や新聞取り、洋服の洗濯、洗濯干しなどを担い意欲を持って暮らせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせ、廊下、浴室等の手すりの位置、安全確保に心がけ、自立への配慮をしています。また、居室を間違えてしまう利用者には、居室入り口に目印として花を付ける等して、分かりやすいよう配慮しています。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない



(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 認知症高齢者グループホーム 和みの家

作成日 平成22年9月25日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	災害の発生に備えて法人で備蓄リストを作成し一括準備しているが、飲料水や排泄用品等を備蓄するまでには至っていない。	災害時に備えて飲料水と排泄用品の備蓄を準備する。	災害時に備えて飲料水と排泄用品の備蓄を購入する。(排泄用品については、オムツ・尿取りの他、ポータブルトイレにて対応する) 保存水・・・20×6・・・7ケース準備	7/26付修了
2	7	管理者は、日々の記録や毎日の朝礼、毎月のヘルパー会議等を利用して職員の意見や要望を聞き、出た意見等を運営に反映させているが、全職員で内容を共有するまでには至っていない。	全職員が会議内容を共有するよう、欠席した職員でも会議録の内容を確認する。	会議時に欠席した職員が、確認した事が分かるよう、会議録に確認印が押印出来る様な書式の作成をする。	8/7付修了
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。